



# きつぎ偉人伝

歴史を刻んだ人物「その二」



「法政大学」創立者  
金丸 鐵

外交官、政治家



「法政大学」創立者



重光 葵

伊藤 修



写真1  
重光葵が幼少期を過ごした地 (重光家【無迹庵】)



写真2  
麻田剛立生誕の地・綾部健太郎寄贈の土地



写真3  
物集高世が晩年を過ごした地



写真4  
一松定吉寄贈の一松邸



写真5  
佐野学生誕の地 (佐野家)



写真6  
法政大学創立者顕彰碑 (城山公園内)

## 杵築市教育委員会

〒879-1307 杵築市山香町大字野原1010番地2  
TEL.0977-75-2414

# 杵築の先哲を知る

杵築市では、近世・近代においてさまざまな分野で活躍した多くの先哲を輩出しました。

この「きつき偉人伝」を読んでいただき、ひとりでも多くの方に郷土の先哲に関心をもってもらえれば幸いです。

## 宇宙の条理を究めた哲学・自然科学者

みうら ばいえん  
**三浦 梅園** (安貞)

享保8(1723)年~寛政元(1789)年

国東市安岐町富永の人。幼時から全てに「何故か」の疑問を持ち、思索・探究する。結果、30歳頃より宇宙の「条理」を『玄語』『贅語』『敢語』に著す。天明6(1786)年、七代藩主親賢の時、藩の学事や藩政に意見を求められ「丙午封事」を献上。



## 「日食」を1年前に予告した天文学者、解剖医家

あさだ こうりゅう  
**麻田剛立** (本名 綾部安彰)

享保19(1734)年~寛政11(1799)年

幼少期より天体に興味を持ち20歳頃より本格的に観測を行う。宝暦13(1763)年、官歴のない「日食」を予告的中する。39歳で大坂に出て天体観測、解剖医学を研究し、解剖図を遺す。月に「アサダ」のクレーターあり。伊能忠敬は剛立の孫弟子。



▲安永7(1778)年頃に描いた「月面観測図」の写

## 初めて地球を一周した大分人

さとう ひでなが  
**佐藤 秀長**

文政3(1820)年~明治38(1905)年

杵築藩士で、長崎の海軍伝習所で勝海舟に学ぶ。万延元(1860)年に日米修好通商条約批准書交換の為の訪米使節団に随員として参加。帰路は世界一周して帰国、その時の様子を『米国日記』として著す。後に、藩校の教授として西洋事情を教えた。



## 日本初の法律学校を設立した教育者

もとだ なおし  
**元田 直** (南豊)

天保5(1834)年~大正5(1916)年

勤皇の志厚く、慶応3年、世子親貴に勤皇討幕を進言、藩主とする。明治7(1874)年、法律学校「法律学会」を設立し、フランス法律も講義、又代言人(弁護士)業務も行い、明治13(1880)年、東京代言人組合(現東京弁護士会)初代会長となる。



## 国学者、『広文庫』編集者

もつめ たかみ  
**物集 高見**

弘化4(1847)年~昭和3(1928)年

東京大学御用掛、東京師範学校(現筑波大学)御用掛などを経て、帝国大学(現東京大学)などの教授となる。多くの著書があるが、大正7(1918)年に出した百科事典の先駆けてある『広文庫』20巻が最大の業績である。國學院大学創立委員のひとり。



## 『法政大学』創立者

かなまる まがね  
**金丸 鐵**

嘉永5(1852)年~明治42(1909)年

代言人(弁護士)として元田直の事務所で訴訟業務に従事。「時習社」社主兼編集長として明治10(1877)年に日本最初の法律専門誌『法律雑誌』を発刊する。明治13(1880)年には伊藤修らと共に『東京法学会』(現法政大学)を創立する。



## 『法政大学』創立者

いとう おさむ  
**伊藤 修**

安政2(1855)年~大正9(1920)年

明治9(1876)年代言人(弁護士)試験に合格し杵築人初の弁護士となる。明治13(1880)年には金丸鐵らと共に『東京法学会』(現法政大学)を創立した。後に、豊後高田市の玉津裁判所、日田市の豆田区裁判所の判事として活躍。



## 幼児教育に尽力した教育者

かわい せいちろう  
**河合精一郎**

文久元(1861)年~昭和8(1933)年

小学校訓導・校長、児童教育、特に幼児教育に夫人タルと共に尽力、明治20(1887)年養徳寺で、全国で2番目の私立幼稚園を開園した。のち郡視学を務めた。日出、豊岡、別府でも開園、幼児教育の生みの親といわれる。後に、杵築町長を一期務める。



## 鬼検事の異名をもつ法曹家・政治家

ひとつまつ さだよし  
**一松 定吉**

明治8(1875)年~昭和48(1973)年

豊後高田市出身で、一松家の養子となる。判事・検事・弁護士として活躍。鬼検事の異名。昭和3(1928)年に衆議院議員当選、以後衆・参両院議員に当選。通信・厚生・建設の各大臣を歴任。私邸を市に寄贈(現一松邸)、杵築市名誉市民。



## 非戦の提督・戦争回避に尽力した海軍軍人

ほり ていきち  
**堀 悌吉**

明治16(1883)年~昭和34(1959)年

10歳で堀家の養子となる。明治34(1901)年、海軍兵学校に入学、「心友」山本五十六(いづみ)を得る。「戦争は悪、凶、醜、災である。」との戦争観から、海軍軍縮、国際協調を基に戦争回避に尽力した。昭和9(1934)年、51歳で予備役に編入。



## 軍令部総長として最後の「御前会議」に出席

とよだ ぞえむ  
**豊田 副武**

明治18(1885)年~昭和32(1957)年

昭和19(1944)年連合艦隊司令長官。豊田は太平洋戦争開戦、日独伊三国同盟に反対した。昭和20(1945)年には軍令部総長に任命された。戦後、戦犯として巢鴨拘置所に入れられたが、主戦論者ではないとして無罪釈放された。



## 外交官、政治家

しげみつ まる  
**重光 葵**

明治20(1887)年~昭和32(1957)年

外交官としてイギリス、中国、ソ連等に赴任。後に外務大臣となる。戦争回避に努めたが第2次世界大戦始まる。終戦時には降伏文書に国の首席全権代表として調印。戦後も改進黨総裁、鳩山一郎内閣で副総理兼外務大臣となり国際的にも活躍した。



## 衆議院議長となった政治家

あやべ けんたろう  
**綾部健太郎**

明治23(1890)年~昭和47(1972)年

高松市の出身。五高(現熊本大学)時代に綾部家に入籍。昭和7(1932)年の総選挙以来、四期連続当選、戦後公職追放されるが昭和33(1958)年国政に復帰、運輸大臣、衆議院議長を歴任した。旧市役所用地を市に寄贈。杵築市名誉市民。菊池寛とは無二の親友。



## 社会運動家、政治学者

さの まなぶ  
**佐野 学**

明治25(1892)年~昭和28(1953)年

藩医を務めた佐野家の出身。雑誌『解放』の編集責任者で部落解放運動の水平社設立に大きな影響を与えた。昭和2(1927)年には共産党中央委員長となるが、のちの共産党よりの転向声明は有名である。また、早稲田大学などの教授も務めた。



## 歌手、歌劇団設立

ふじわら よしえ  
**藤原 義江**

明治31(1898)年~昭和51(1976)年

大阪で生まれ杵築の藤原家に入籍。イタリアで学びテナー歌手として名声を得て帰国。歌手として活躍の一方、「藤原歌劇団」を設立しオペラ界の重鎮となる。日本の歌を海外にも広める。出身地の山口県下関市には「藤原義江記念館」がある。

